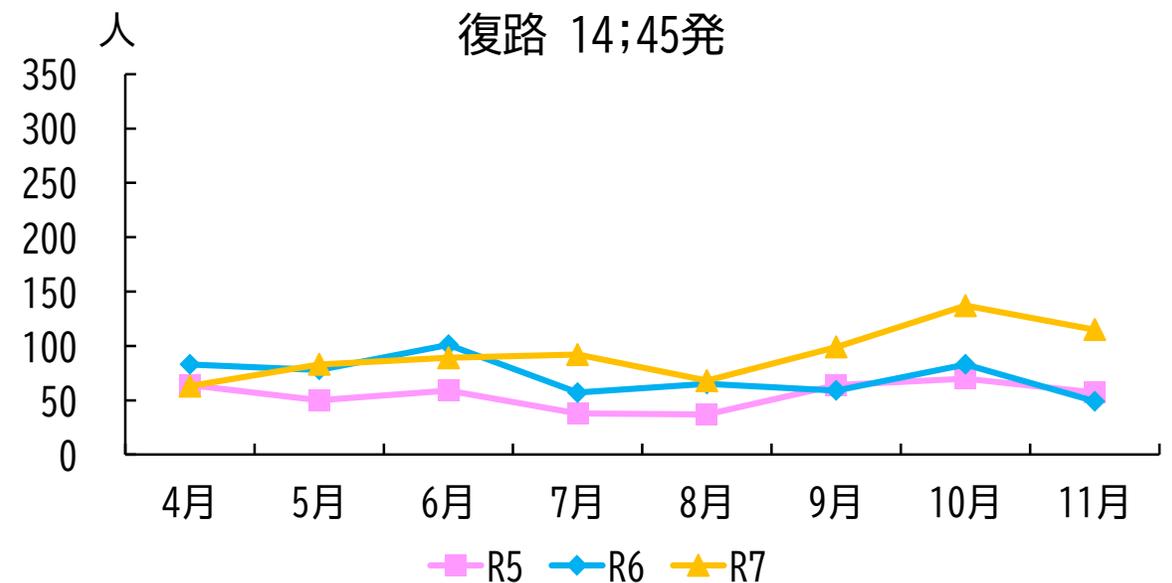
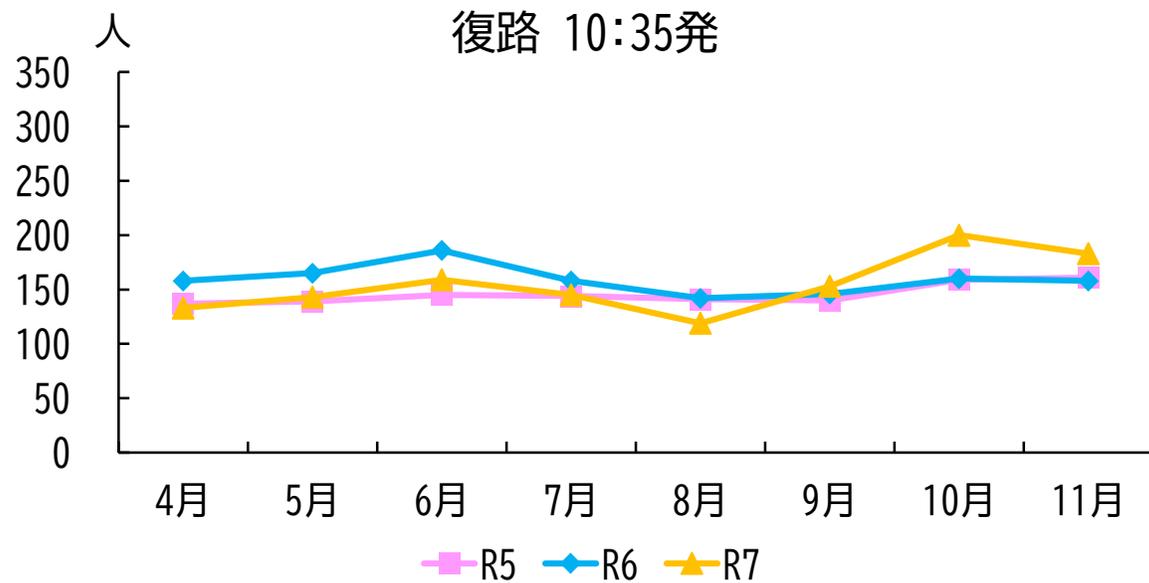
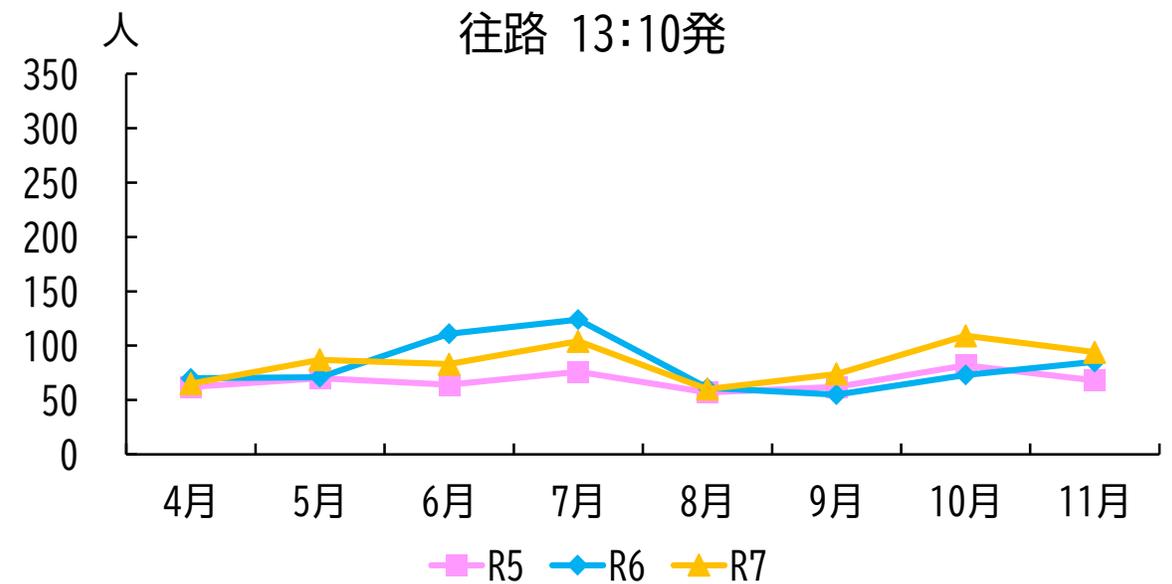
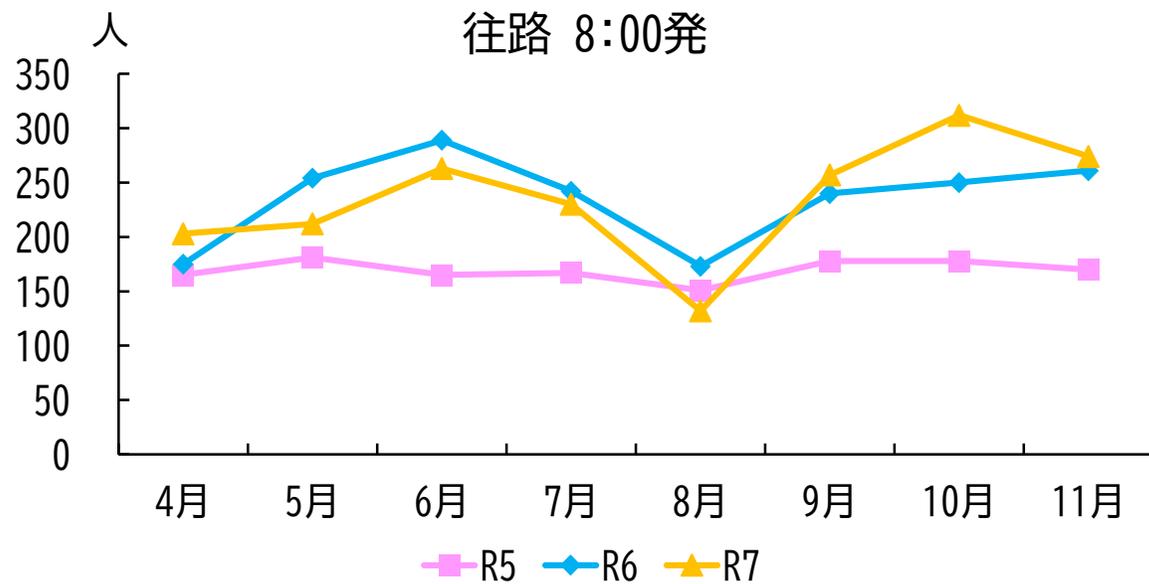


## 相和循環及び相和・金子循環（旧相和循環）

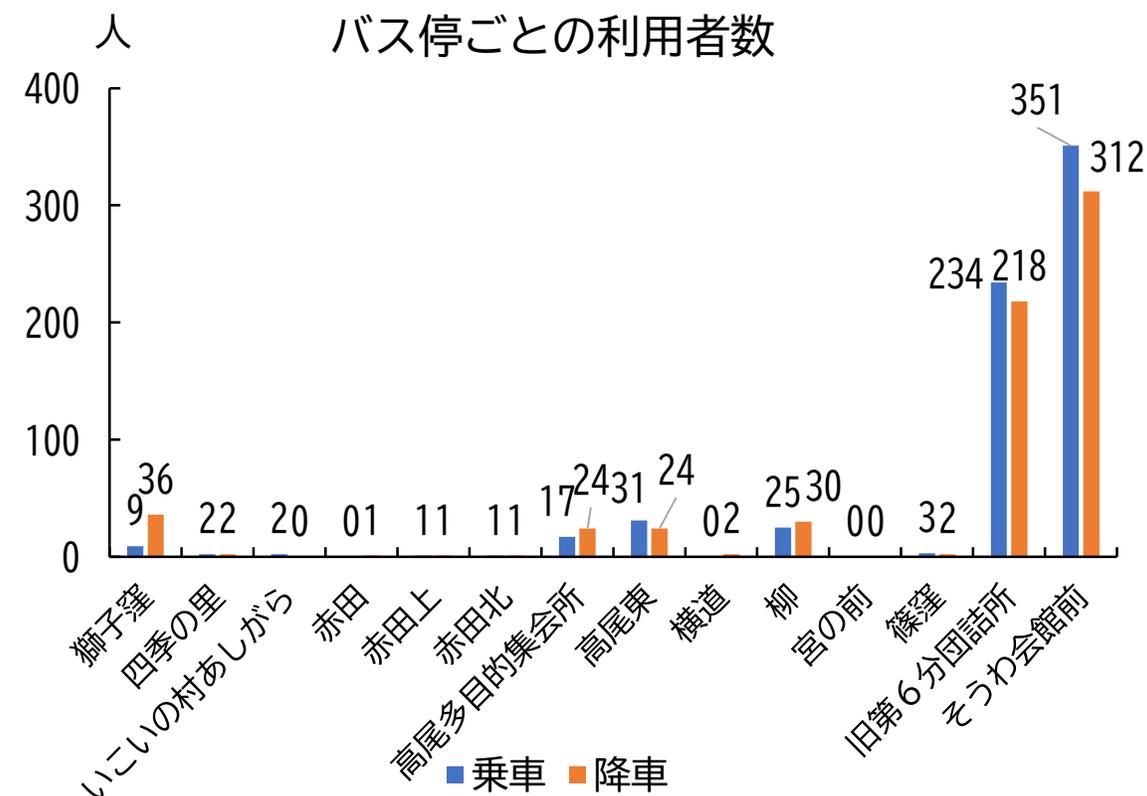
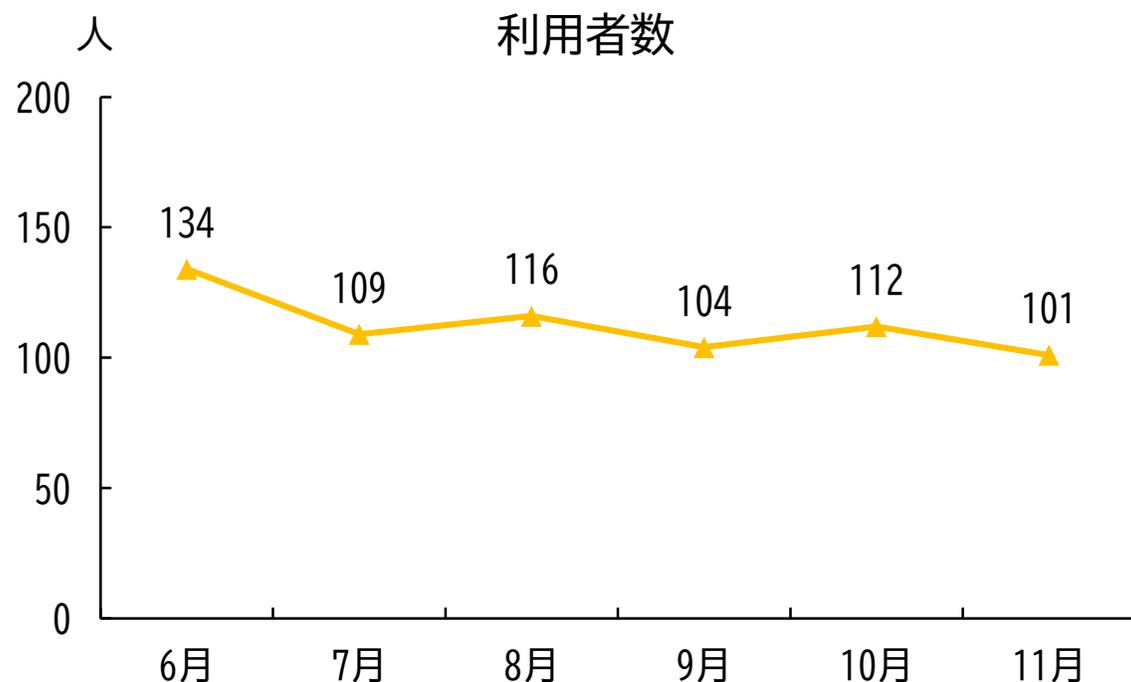
### 1. 相和・金子循環 利用者数の推移



- R 7年度5月より運行形態を変更後大きな変化はなかったが、**9月以降は全便で増加傾向**である。
- 午前便と比較すると午後便の利用が少なく、往路に対して復路の利用率は77%にとどまり、**復路時の移動手段の確保について検討**が必要である。

## 2. 相和循環

### 利用者数の推移・バス停ごとの利用者数

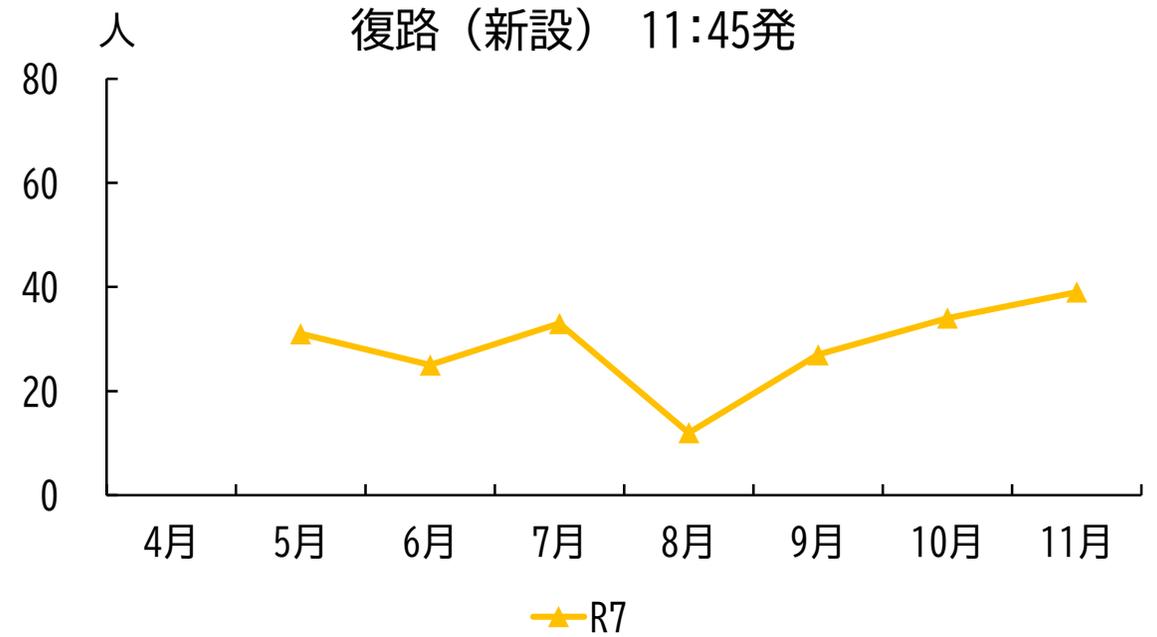
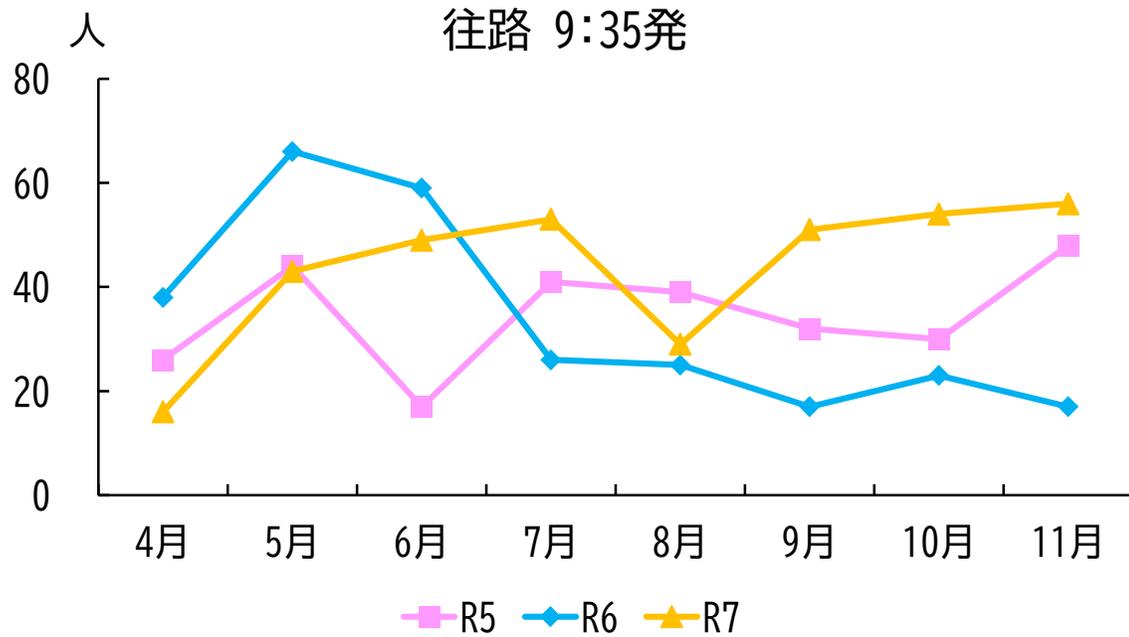


- 利用者おおむね100名程度で推移しており、相和・金子循環の利用者数は増減がないため、**乗り継いで移動がされている**と考えられる。
- 結節点のそうわ会館では乗車人数（復路）が若干多いが、**多くが往復での利用がされている**と考えられる。
- **赤田地区**においては、地域内での送迎により賄われており、**0-1名/月の利用**にとどまっている。

## 3. 今後の方針

- 利用者数の大幅な増減はなかったものの**乗り換えが負担**となっているという意見もあった。
- これまで**ゆめバスを利用できていない人の利用の取り込みには至っていない**。
  - **乗り換え場所の移動、整備（車両サイズや運行ルートなどの見直しが必要）**
  - **乗り換えのない以前の運行（1便の運行時間が長いデメリットあり）**
  - **乗り換えのない255号線沿線までの運行（既存交通との競合）**などを検討
- 積み残しや買い物後の荷物の場所が確保できないため、**運行車両（大型化）**についての検討が必要。
- 需要の変化に対応した、**バス停の位置**について定期的な点検が必要。

## 1. 利用者数の推移



- R7年度5月より復路を追加したことにより、往復で利用が可能となった。
  - 利用が増加傾向のため、復路があるために公共交通を使用する選択肢が増えた可能性がある。
  - 往復で人数に大きな差がなく、月ごとの傾向も同様であるため往復で利用している。
- 利用は増加傾向であるがフィーダー補助の要件（2人/便）に満たない。

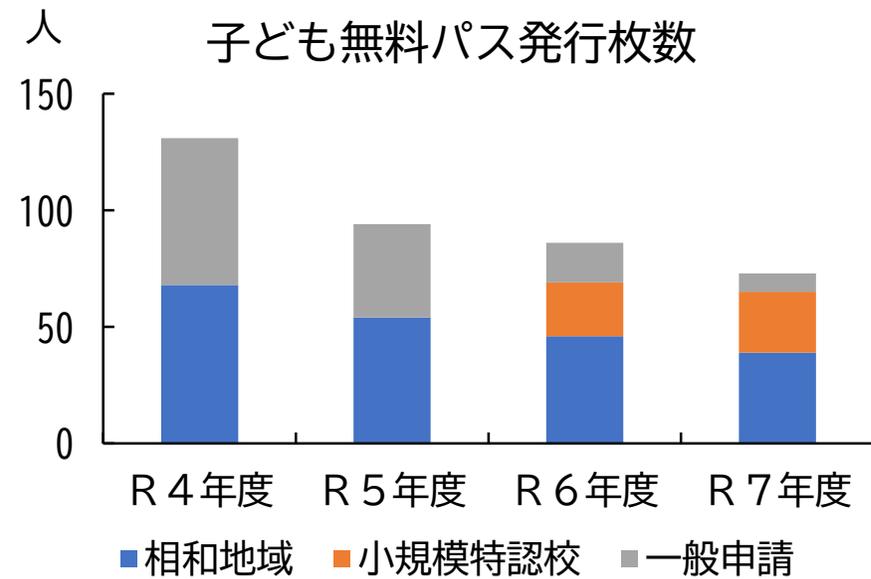
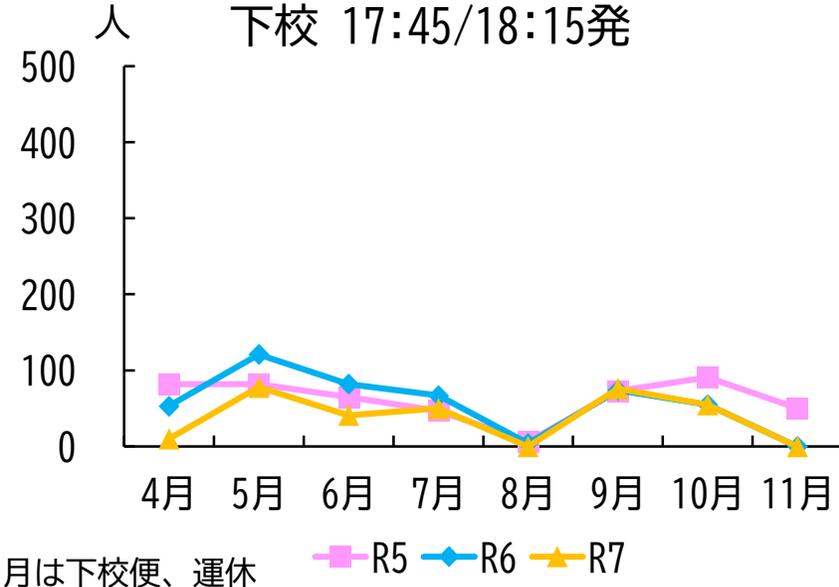
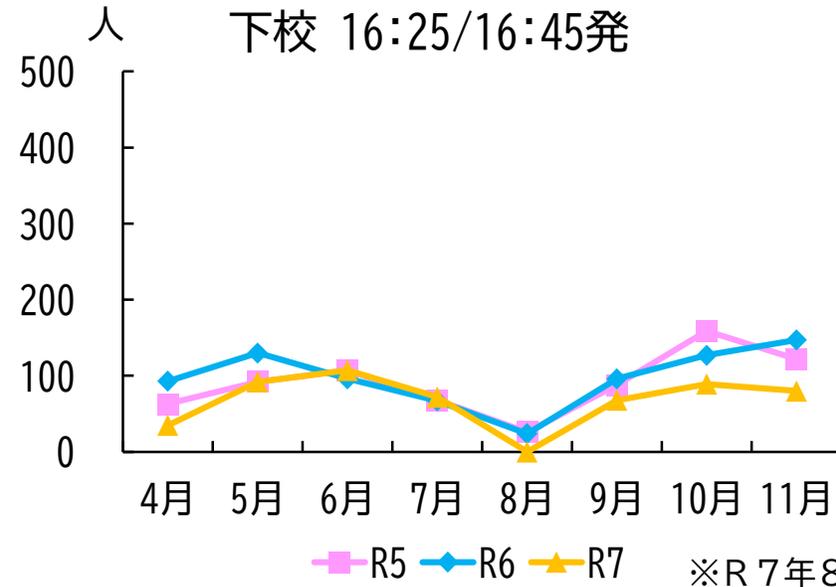
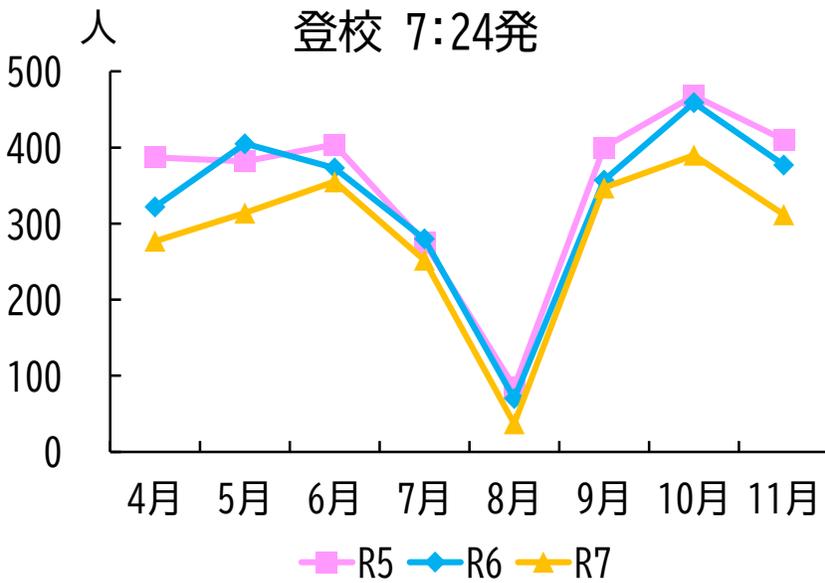
## 2. 今後の方針

- 意見交換会よりバス停の増設要望があった、相模金子駅入口（さがみ信金）のバス停を追加。
- 9月以降、往復ともに利用者は増加傾向であり来年度についても同様の運行を行う。



# 登下校ルート

## 1. 利用者人数の推移



- 子どもの**人口減少に伴い**利用者数、無料パスともに**年々減少**している。
- 登校に対して下校の合計は40%であり、**下校時の送迎負担等について把握**が必要である。

## 2. 今後の方針

- 利用は減少しているが、**子どもの移動手段の確保を最優先と定めており、運行を継続**する。
- 一般申請が減少しており、**登下校ルートに限らない利用促進も含めて検討が必要**である。

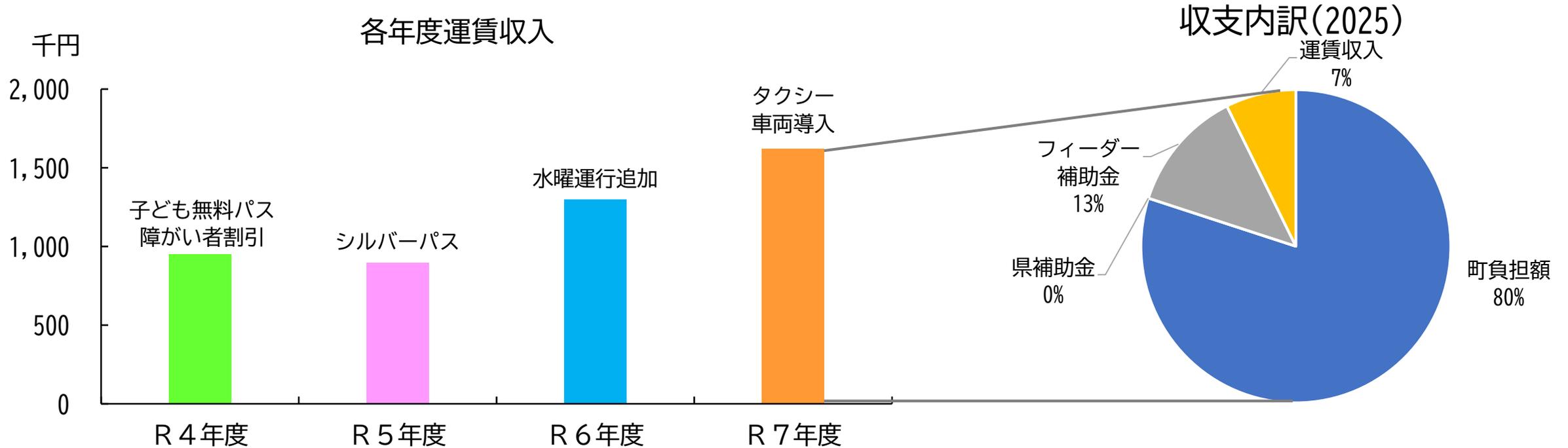
# 運行経費と運賃収入

単位(千円)

	支出(A)	収入(B)					町負担額 (A-B)	
	運行経費	国補助金	県補助金	運賃収入				合計
				IC+現金	回数券	合計		
R4年度	14,952	2,068	7,318	648	300	948	10,334	4,618
R5年度	16,478	2,494	7,031	873	22	895	10,420	6,058
R6年度	18,078	2,794	7,856	1,280	16	1,296	11,946	6,132
R7年度	22,030	2,794	0	1,576	42	1,618	4,412	17,618

※R7年度の収入は、4月～11月の実績をもとにした概算。

※R7年度の国補助金はR6年度の実績を記載。



- 9月以降利用が増加傾向であり、運賃収入は**前回見込(1,500千円)**より増加し**1,600千円を見込んで**いる。
- R7年度よりタクシー車両を追加し2台体制の運行となったため支出は4,000千円増、県補助がR6年度で終了しているため収入は7,800千円減となる。
- 本年度以降、**町の負担額は約12,000千円程度増となるが、運行を継続することを確認**(前回協議会)。

## 達成度

○大井町地域公共交通計画における達成状況の評価のため、R8年度の利用者数と収支率について以下の目標とした。

利用者数：**一般利用者数6,000人、小中学生利用者数4,000人**

収支率：R8年度までに委託料15,000千円のうち、**収支率8.7%**（1,305千円）とする。

		利用者数			収支率		
		目標	実績	達成度	目標※1	実績※2	達成度
R5年度	一般利用者	6,000人	5,795人	97%	8.70%	14.48%	166%
	小中学生	4,000人	6,138人	153%	—		
R6年度	一般利用者	6,000人	6,449人	107%	8.70%	12.81%	147%
	小中学生	4,000人	5,128人	128%	—		
R7年度	一般利用者	6,000人	<b>7,638人</b>	127%	8.70%	11.21%	129%
	小中学生	4,000人	<b>4,706人</b>	118%	—		

※1 計画では収支率の目標を一般利用者のみで算出しているため、小中学生を「—」で表記。

※2 収支率の実績は、利用人数ベースでの実績。

※3 R7年度は4月～11月の実績をもとにした概算。

### 【収支率実績の算出方法】

R5年度： $(11,933人 \times 200円) \div 16,477,800円 \times 100 = 14.48\%$

R6年度： $(11,577人 \times 200円) \div 18,078,000円 \times 100 = 12.81\%$

R7年度： $(12,344人 \times 200円) \div 22,029,360円 \times 100 = 11.21\%$

- 子どもの利用者は減少傾向であり、**次期計画では人口減少を踏まえて目標設定**を検討する。
- 一般利用者は増加傾向のため、利用が継続するように**定期的に利用者の意見を聴取**する。
- 子どもパス、シルバーパスを発行しているため、**利用者数と収支の乖離があるため実態把握が必要**である。